

滝沢市地域経済振興計画 (素案)

～第2次滝沢市総合計画市域全体計画経済産業部門の横断的計画～

令和7年8月
滝沢市経済産業部

I N D E X

1 滝沢市地域経済振興計画策定の趣旨……………	1
2 滝沢市地域経済振興計画の計画期間……………	1
3 滝沢市地域経済振興計画の性格と役割……………	1
4 経済産業振興に関する基本的考え方……………	2
5 滝沢市の持つ優位性と課題……………	5
6 滝沢市地域経済振興戦略方針……………	9
7 横断的振興プロジェクト……………	12
8 滝沢市地域経済振興計画の進行管理について……………	24

1 滝沢市地域経済振興計画の策定の趣旨

滝沢市では、令和 6 年度から新しい総合計画である「第 2 次滝沢市総合計画」により、将来像の実現を目指しています。しかしながら、地域経済の展望においては、少子化の進行に伴う人口減少、若者の都市部への流出による労働力や後継者の不足、またそれらを背景とした滝沢市、盛岡広域、岩手県の地域全体における市場の縮小などが懸念されます。

また、新型コロナウイルス感染症拡大に端を発したサプライチェーンの混乱、ロシアによるウクライナ侵略に伴う農産物、原油、肥料等の価格高騰や供給不安、気候変動や政治的背景による輸出規制、さらには円安の進行などの外部要因も地域経済に大きな影響を及ぼしています。加えて、経済のグローバル化、AI や通信技術の進展、コロナ禍を経た市民の価値観の変化、働き方改革など、社会や経済の動向に柔軟に対応する必要があります。

このような状況の中で、地域経済の活性化には、EC 市場への展開や地域の実市場への他地域からの消費者誘導による市場拡大、地域産業の生産性向上と人材や新産業の育成、さらには企業や人材の誘致による成長力の強化を図る必要があります。

第 2 次滝沢市総合計画では、地域経済の活性化のため経済産業部門として、「観光物産分野」、「企業振興分野」、「若者活躍推進分野」、「農林業分野」の 4 つの施策を掲げ、事業を推進しています。

事業の展開においては、課題の多様化や市民の価値観の変化、科学技術の急速な進展に対応するため、分野の枠を超えた取り組みが重要となっています。

また、令和 3 年 4 月に地域を構成する各立場の方々が連携し、一つになって相乗的に産業振興の取り組みを進めるために施行された滝沢市産業振興条例により設置された滝沢市産業振興会議の場においても各産業分野の委員からも分野を超えた情報共有、課題への対応、事業実施が必要との声が聞かれます。

そのようなことから、本計画は、「第 2 次滝沢市総合計画」の「経済産業部門」を遂行するための横断的な取組や事業を示し、経済産業部門の施策推進を加速させるために策定するものであり、これにより、部門が目指すビジョンの達成を目指します。

2 滝沢市地域経済振興計画の計画期間

本計画は、令和 7 年度（2025 年）から令和 13 年度（2033 年）までの 7 年間の計画です。なお、経済産業部門計画に変更があった際には、その都度見直しを図るものとします。

3 滝沢市地域経済振興計画の性格と役割

この計画は、「第 2 次滝沢市総合計画」市域全体計画の「経済産業部門」政策「様々な産業の活性化が繋がり広がるまち」の 4 つの施策をより効果的に推進するため、部門横断推進方策をまとめたものです。

したがって、本計画は「様々な産業の活性化が繋がり広がるまち」の 4 つの施策だけでは対応しきれない産業間の横断的な事業の推進について示した補足的な計画として位置付けられます。

また、本計画の提示により、市内企業、産業従事者、教育研究機関、産業支援団体等の理解と協力を得ることで、連携・協働による積極的な事業展開が促進され、令和 3 年 4 月に施行された滝沢市産業振興条例の目的を達成することも期待するものであります。

4 経済産業振興に関する基本的考え方

地域の経済循環は、市場の視点から「内的循環」と「外的循環」の2つに大きく分けることができます。内的循環は地域内の市場を基本とした経済循環であり、外的循環は地域外の市場と地域内の市場の関係性から成り立つ経済循環です。

滝沢地域の経済の特性としては、滝沢市の生活圏が近隣市町村と共有されており、滝沢地域だけですべての経済活動を完結させることは困難であり、そのため、他地域の資源や人材を活用することで、地域内の経済循環が成り立つという特性があります。近年では、通信インフラや輸送産業の発展によりEC市場が急速に拡大しており、地域内市場の構造がより複雑化しています。

これら背景の中、滝沢地域の経済振興を進めるためには、地域内での取引を拡大させ、地域外から所得を稼ぐことが重要であり、次の2点を意識した産業振興策の検討が基本となります。

・地域内市場に対する地産地消の推進（地域内で取引を拡大させる）

滝沢地域内の需要に対しては、できるだけ地域内で供給することが求められます。各産業で「地産地消」を進めることで、地域内の経済循環を強化します。

・地域外市場に対する付加価値の高い商品やサービスの提供（地域外から所得を稼ぐ）

滝沢地域内で生産される商品の価値や生産性を高め、地域外の市場へ積極的に提供し、地域外からの所得を稼ぐことが重要となります。

（1） 滝沢地域内の市場に対して、滝沢地域内での地産地消を推進していくこと

滝沢地域内での地産地消の推進は、地域内で生産された農産物等の資源そのもののブランド化や加工製造を行い、その製品を市民が消費することで、地域内経済の循環を図る取り組みです。具体的には、市内で生産した農産物等の資源が加工品などの製品として市場に流通し、市民がそれを購入・消費することで、得られた対価をもとにさらに農産物や加工品の生産が進められるという仕組みを指します。

しかしながら、滝沢市は県都である盛岡市に隣接しており、多くの住民が盛岡市へ通勤しています。また、滝沢市に隣接する盛岡市の郊外には大型ショッピングセンターが立地しているため、滝沢市内の小売吸引力指数が低いという課題があります。

このような状況の中で、滝沢地域内での地産地消を推進していくためには、次のような取り組みが重要です。

・地域資源の付加価値向上

地域内で生産した農産物や資源に付加価値を付け、加工品や製品として販売する体制を強化する必要があります。

・市民が購入しやすい環境の整備

地元産品を取り扱う販売拠点の設置や拡充、地産地消を意識したイベントの開催など、市民が地元産品に触れる機会を増やす必要があります。

・地域経済活性化への意識啓発

市民に対して、地域内の経済や産業の活性化における地産地消の重要性を周知し、地域産品の利用促進を促す必要があります。

これらの取り組みにより、滝沢地域内における地産地消の推進と、地域経済の活性化が期待されます。このように、経済的側面については、地域内での経済循環の基本を形成し、地域経済の活性化に寄与する点が挙げられます。地元での消費が増加することで、地域内の企業や事業者の利益が向上し、持続可能な経済基盤の確立が期待されます。

一方で、社会的側面についても、地域の課題解決や住民の皆さんの生きがいに繋がる点で重要な役割を担っています。特に近年、住民の安全・安心に対する意識が高まっており、無農薬、地産地消、食育などへの関心が強まっています。こうした取り組みは、地域の特性を活かしつつ、安全で安心な社会の実現に貢献するものです。さらに、地域課題の解決に向けたビジネスの活用が今後の重要な手法となると考えられます。高齢化や退職年齢の引き上げにより、地域内ではさまざまな課題が生じています。これらの課題に対して、ビジネス手法を活用した解決策が期待されています。また、インフラの老朽化や災害時の対応などにおいても、地域内企業との連携が求められます。地域の特性や住民のニーズを的確に捉え、周辺市町村と連携して経済圏の中で取り組むことが重要です。

滝沢地域における経済的循環は、経済振興だけでなく、地域課題の解決や住民の皆さんの安心・安全の確保にも深く関わるものであり、今後の持続可能な地域づくりにおいて重要であると考えます。

(2) 地域外市場に対する付加価値の高い商品やサービスの提供

滝沢市における地域外市場への商品やサービスの提供を進めるためには、地域内で生産された、例えば、農産物等の資源に付加価値を付けた加工品等の製造、さらには、それらを地域外市場へ販売することで外貨を得る仕組みづくりが重要となってきます。これにより、地域内の経済を活性化し、拡大させることが期待されます。

滝沢市は盛岡市に隣接しており、盛岡広域圏の8市町を含めると人口は約46万人規模となります。加えて、滝沢市は、東北縦貫自動車道、国道4号、国道46号、国道282号、主要地方道盛岡環状線、さらには、JR田沢湖線（小岩井駅、大釜駅）、IGRいわて銀河鉄道線（滝沢駅、巣子駅）の4駅と優れた交通アクセスを有しています。また、これらの条件により、周辺市町の住民や通過交通を含め、ある程度大きな市場が形成されています。

一方で、滝沢市内には商品やサービスを販売する小売業やサービス業、商品を加工・製造するための企業が少ない状況です。現在、滝沢市の特産品であるスイカ、リンゴ、岩魚、サツマイモなどを活用した加工品の開発は主に農家が主体となっており、市内の加工場がないために市外の製造・加工業者に依頼するケースが多くなっており、滝沢市の農産物の付加価値が滝沢地域外で付けられており、地域外からの外貨を獲得する上でロスを招いていると言えます。これら課題を解決するためには、市内企業の製造加工への参入や外部からの企業誘致、新たな地域ブランドの構築、新産業の創出などの取り組みが求められています。

また、岩手県内では少子化や人口減少が顕著となっており、滝沢市でも今後は人口減少が進み、地域内市場に大きな影響を与えると考えられます。そのため、地域内市場の縮小に対応しつつ、他地域

からの消費者を増やす方法を模索する必要があります。

一方で、滝沢市には4年制大学が2校立地しており、特に岩手県立大学にはソフトウェア情報学部が存在し、さらに、滝沢市 IPU イノベーションセンターおよびパークには約30社の企業が立地しております。例えば、自動車のソフトウェアの付加価値が高まる中で、2030年には50%程度、コストの約半分を占めるようになると予想される中で、今後のソフトウェアの付加価値はさらに上がることが予想され、市の産業の付加価値を高める拠点としてさらなる取り組みが重要となっています。

以上の取り組みにより、滝沢市の地域外市場への付加価値の高い商品やサービスの提供が強化され、地域経済の発展につながることが期待されます。

5 滝沢市の持つ優位性と課題

(1) 滝沢市の概要

滝沢市は岩手県の中央から北西よりに位置し、周囲の南部と東部は県都盛岡市に、北部は八幡平市に、西部は雫石町にそれぞれ接しています。市域は、およそ東西 14 キロメートル、南北 20 キロメートルで、市の北西に秀峰岩手山を望み、東部、南部を北上川、雫石川にそれぞれ画された、総面積 18,246 ヘクタールの地域です。

気候は、奥羽山脈のふところにあり、夏季は比較的しのぎやすく、冬季は寒気が厳しく、積雪は 11 月から 4 月にかけて見られます。

かつて、本市は稲作、畜産を主体とした純農村地域でありましたが、昭和 40 年代後半から、宅地開発が進み、昭和 45 年国勢調査人口 12,000 人であったものが、平成 2 年に 38,108 人、平成 7 年に 44,189 人、平成 12 年に 51,241 人、平成 17 年が 53,560 人で、平成 22 年が 53,879 人となり、平成 26 年 1 月 1 日に市政施行を行い滝沢市となりました。最新である令和 2 年の人口は 55,579 人となっています。また、就業構造（従業地ベース）は、令和 2 年国勢調査時点で第 1 次産業が 4.8%、第 2 次産業が 21.7%、第 3 次産業が 73.5%であり、前回調査時（平成 27 年）と比較して、第 1 次、第 2 次産業が若干減少したのに対し、第 3 次産業の就業人口が若干増加しています。

交通網は、市の東部に I G R いわて銀河鉄道線が、南部には J R 田沢湖線が走っています。I G R いわて銀河鉄道線には滝沢駅と巣子駅の 2 駅、J R 田沢湖線には大釜駅と小岩井駅の 2 駅があり、市内に 4 つの鉄道の駅が設置されています。また、市の中央を南北に東北縦貫自動車道が通っており、北部には滝沢インターチェンジが設置されており、中央には平成 31 年 4 月に開通した滝沢中央スマートインターが設置され、南部には本市と隣接する形で盛岡インターチェンジが設置されています。国道は東部に国道 4 号、国道 282 号、南部に国道 46 号が通っており、南北と西の結節点となっております。県道は 6 路線あり、主要地方道盛岡環状線を中心として、重要な市内の幹線となっています。

また、市内には、岩手県立大学、盛岡大学の 2 大学が立地、更には、多くの国県等の研究機関が設置され、東部地域は研究学園エリアを形成しています。

(2) 滝沢市の持つ優位性と課題（○優位性、●課題）

①市場規模について

- 人口約 29 万人の県都盛岡市に隣接しており、滝沢市の人口を含めると約 34 万人規模の商圏がある。
- 更に、盛岡広域圏（滝沢市、盛岡市、八幡平市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町）の全体では約 46 万人規模の商圏がある。
- 東北縦貫自動車道、国道 4 号、国道 46 号、国道 282 号、主要地方道盛岡環状線が通っており、通過交通を含めると大きな商圏が存在する。
- 盛岡市や広域の人口を含め商圏はあるが、消費者を取り込むための施設等が少ない。
- 滝沢市の産業の中心となる商業核、商店街がない。

②人材について

- 盛岡大学、岩手県立大学が立地しており、約 4,000 人の学生が様々な分野で学んでおり、また、盛岡北高校、盛岡農業高校の 2 校があり人材が豊富である。また、各大学の研究者も豊富である
- 市内には、多くの国や県等の研究機関があり、優秀な人材がいる。
- 県内の自治体で、平均年齢が最も若く、若い人材が豊富である。
- 人口 5 万人を超える人口を有しており、人材が豊富である。
- 学生は学部等により岩手県外へ数多く就職している状況であり、特に、女性の流出が多く課題となっている。
- 市内の国、県の研究機関との連携が弱いため、生かしきれていない。
- 人材育成及び交流について一部で進んでいるが、市内全体での人材育成及び交流が進んでいない。
- 農産物等の資源はあるが、加工、製造する人、企業がなく付加価値がつけにくい。

③立地と交通アクセスについて

- 県都盛岡市に隣接している。
- 路線バスにおいては、盛岡市に次いで県内 2 番目に充実している。
- 新幹線駅である盛岡駅に近く、他地域、特に、仙台、東京等への往来がしやすい。
- 市内に、小岩井駅、大釜駅、滝沢駅、巢子駅の 4 駅が設置されている。
- 国道 4 号、国道 46 号、国道 282 号、主要地方道盛岡環状線の幹線が通っており、周辺地域等へのアクセスが良い。
- 東北縦貫自動車道が本市の中心を南北に走っており、滝沢インターチェンジ、滝沢中央スマートインターチェンジを有し、他地域との行き来がしやすい。また、隣接して盛岡インターチェンジ、西根インターチェンジもあり市内の各地域と高速道路のアクセスが良い。
- 北東北の中心部への立地及び道路、鉄道によりアクセスが良いことから、北東北を商圏とした展開可能性がある。
- 交通アクセスが良いものの、滝沢市として売り込む物や場所が少ない。PR ができない。
- 盛岡市への交通ネットワークは確立されているが、市内交通ネットワークが弱いため、市内の地域間の往来がしにくい。

④環境と資源について

- 都市部に近い環境にあって、岩手山、鞍掛山、春子谷地などの雄大な自然があり、ロケーションとしては優れており、多くの登山客等が訪れている。
- 伝統的な行事であるチャグチャグ馬コが開催され、多くの観光客が 6 月の第二土曜日に訪れる。
- 岩手山の湧水は豊富であり、湧水を活用した岩魚やサケの養殖が行なわれている。
- ツガワ未来館 Apio、鞍掛山、相の沢キャンプ場、さらには、市の周辺に集客施設があり多くの来客がある。
- チャグチャグ馬コは、1 日だけの祭りであり、年間を通した集客ができない。
- チャグチャグ馬コの馬の頭数の減少及び馬主の高齢化と減少が課題となっている。
- 市内に宿泊施設が乏しいため、多くの観光客は近郊に宿泊しており、経済的に波及効果が弱い。
- 本市の資源を生かしたお土産品等が少ないため、滝沢市の PR 等が弱く、経済的な循環が起こりにくい。

⑤土地利用と産業について

- 耕種農家については、小規模であるため小回りが利き、栽培品目を変更しやすい。
- 農業法人の設立が相次いでおり、今後の法人としての取組に期待ができる。
- 中堅の農業者の成長が進んでおり、加工品を含め様々な農産物の開発が進んでいる。
- 岩手県立大学周辺に IT 関連企業が集積しており、様々な開発や人材育成、雇用が進んでいる。
- 滝沢中央スマートインターチェンジが設置されたことにより、新たな企業集積の可能性が広がっている。
- ビッグルーフ滝沢、中心拠点商業地区の整備により中心拠点の価値が高まり、さらなる商業施設等の立地が期待できる。
- 農業者の高齢化が進み、後継者が不足しており、農家の減少が進んでいる。
- 製造業については、最終製品を扱う製造業者が少ないため、経済循環が進みにくい。
- 商業については、盛岡市に隣接していることから、地元購買率が低い状況にある。
- 中型のスーパー、日用品小売はある程度地域に配置しているものの、地元の小売が少なく、地域内の経済循環が進まない。 ○岩手県立大学周辺に IT 関連企業が集積しており、様々な開発や人材育成、雇用が進んでいる。
- 地元の地域産品を売る場所が市内に少ない。
- 全体的に市内の企業は小規模の企業が多く、また支店、営業所機能が多いため、経済循環が進みにくい。
- 市街化調整区域内は土地利用の制限があるため、新しい企業の立地や既存企業の拡張等が困難となる場合がある。

(3) 滝沢市の持つ優位性と課題のまとめ

滝沢市は、周辺の市町村の人口や国道、県道などを通過する人々を含めると、多くの消費者を抱えている点で優位性があります。しかしながら、実際には市内の商店や特産品が少ないため、この強みを十分に活かしきれていないのが現状です。さらに、隣接する盛岡市へ滝沢市の住民が買い物に出かける傾向が強く、滝沢市内での買い物環境の整備や特産品の開発といった、独自ブランドの構築が重要な課題となっています。

交通の面では、盛岡駅や東北縦貫自動車道を活用した他地域からのアクセス、また市から他地域へのアクセスは整備されており、これも滝沢市の優位性です。また、ツガワ未来館 Apio、鞍掛山、相の沢キャンプ場などの集客施設があるものの、これらの施設への来訪者を活かした産業振興が十分に行われていません。さらに、小岩井農場、温泉、スキー場、盛岡手づくり村など、周辺の観光資源の集客効果を滝沢市の経済活動に十分に結び付けられていない点も課題といえます。これらの交通網や集客施設を活かし、市内での経済活動の促進が求められます。

観光については、他地域からの集客をいかに進めるかが今後重要な役割を果たします。特に、滝沢市の伝統行事であるチャグチャグ馬コの継続と、その魅力を生かした集客に力を入れつつ、観光そのもののあり方について再考していく必要があります。国内において人口減少が進む中、岩手県や盛岡広域、滝沢市においてもその波は加速度的に拡大し、地域市場の縮小が懸念されています。このため、観光に拘ることなく、滝沢市への訪問者を増やすための仕組みや施設の誘致、立地の検討が今後の重要課題となります。

人材面では、周辺地域を含めて人口が多く、大学や研究機関が豊富である点が滝沢市の大きな強みです。この人材の優位性を活かすため、大学や企業との連携をさらに深め、優れた人材の発掘と育成に取り組む必要があります。

平成 21 年度から進めている岩手県立大学周辺への IT 関連企業の集積は、現在約 30 社が集積しており、イノベーションセンターを中心とした人材育成事業などの成果が現れ始めています。今後は、これらの取り組みを市内全域へ展開するとともに、岩手県立大学周辺の産業集積の拡大と人材育成事業の強化が求められます。

さらに、新しい企業誘致のための土地の確保や、既存企業の拡張に関する土地利用の調整が必要です。加えて、岩手県立大学周辺に続く新たな産業用地の検討も進めるべき課題です。

滝沢市の経済活性化には、大企業の誘致だけではなく、例えば、地域コミュニティレベルでの小さな経済循環の創出も重要です。こうした小規模な経済循環が数多く生まれる環境づくりと、それらの活動をつなげる取り組みが求められます。特に、滝沢市の強みである大学の立地や人材を、経済活動にどのように活かしていくかが今後の重要な取り組みとなると考えます。

6 滝沢市地域経済振興戦略方針

< Ⅰ 基本方針（第2次滝沢市総合計画部門別計画） >

（Ⅰ）政策名称＝ビジョン（部門が目指す4年後のまち）

様々な産業の活性化が繋がり広がるまち

【設定理由】

地域の産業に関わる方々が活動しやすい、挑戦しやすい環境をつくることで、1次産業、2次産業、3次産業など様々な分野において産業の活性化に繋がる取組が生まれ、これら一つ一つの取組を繋ぐことで、連携が生まれ、分野を超える大きな産業の活性化へと広がる取組を推進します。

（Ⅱ）部門が4年間で取り組むこと（ミッション）

人材育成と公民連携、誘致の更なる推進とチャレンジの創出

【設定理由】

滝沢市の優位性を生かし、大学、研究機関、農業者、企業等の連携を更に促進し、人材育成を進め、技術、知識を生かした取組を推進します。また、これら人材育成、公民連携、誘致等の取組を推進し、さらには発信することで、様々な人がチャレンジしやすい環境を創ります。

（Ⅲ）分野ごとの施策

①観光物産分野

連携による観光産業の創出及び競争力のある物産振興と安心して働く環境の整備

【取組内容】

- ・滝沢市観光物産協会と連携、協力による観光産業の推進
- ・チャグチャグ馬コの保存と活用による観光振興
- ・特産品開発への支援とふるさと納税制度を活用した物産振興
- ・雇用確保支援事業の実施
- ・高齢者の就労促進による活力ある地域社会づくり

②企業振興分野

I C T関連を中心とした産業集積の促進と産学官連携による人材育成、地域産業の活性化

【取組内容】

- ・I C T産業集積を目指し、イノベーションパーク拡張の具体的検討
- ・I T企業の誘致推進による盛岡広域都市圏におけるI C T産業の拠点化
- ・滝沢市産業振興条例に基づいた市内商工業者の振興
- ・産学官連携によるI T企業人材・地域D X人材の育成支援

③若者活躍推進分野

多様な連携による若者が活躍できる環境づくりと価値創造

【取組内容】

- ・ 学生を切り口に若者を応援する「学生応援プロジェクト」の実施
- ・ 学生や若者の人材育成事業等地域や企業と連携した取組の推進
- ・ 若者の「自由な発想」により、若者自らが価値を生むための取組支援

④農林業分野

新たな担い手育成や環境保全による持続可能な農林水産業の推進

【取組内容】

- ・ 担い手育成・確保や農地集積・集約の推進、基盤整備の促進
- ・ 農商工連携による6次産業化や農産物の高付加価値化の推進
- ・ 相の沢牧野の活用による畜産農家の経営基盤強化の促進
- ・ 森林環境譲与税を活用した適正な森林管理の促進
- ・ 鳥獣被害防止対策の強化

< 2 横断的経済振興方針 >

現代においては、技術革新、消費者ニーズの変化、地域経済の課題、そして社会課題の複雑化といった背景から、農業、商業、サービス、工業、観光などの多様な産業が連携し、横断的に産業振興を進めることが求められています。

技術革新の進展については、AI や IoT、ビッグデータなどのデジタル技術が急速に発展し、これらの技術は特定の産業にとどまらず、農業や商業、観光など幅広い分野で活用が進んでいます。このような技術の導入により、産業の垣根を超えた連携が不可欠になっています。

また、消費者ニーズの変化については、現代の消費者は単に商品を購入するだけでなく、体験型のサービスやストーリー性のある商品を求める傾向が強まっています。このような消費者ニーズの変化や多様化は、新型コロナウイルス感染症の影響でさらに加速しており、例えば、農家は農産物の生産だけでなく、観光や飲食業と連携して地域の魅力を伝えるなど、複数の産業が一体となった取り組みが求められています。

さらに、地域経済の課題として、少子高齢化や人口減少が進み、産業ごとの個別の取り組みでは十分な経済効果を生み出しにくくなっています。人口減少に伴い、今後、地域内市場は縮小し、経済活動が低下していくことが予想されます。こうした課題を克服するためには、例えば、地域の農産物を単に小売店で販売するだけでなく、体験型観光等の観光資源として PR することが必要となってきました。さらには、他地域から人を呼び込むための取組や施設の立地など、産業横断的な取り組みによる相乗効果が重要となっています。

加えて、社会課題の複雑化も大きな影響を与えています。気候変動への対応や環境保護、食料安全保障といった課題は、一つの産業だけでは対応が困難です。これらの問題を解決するためには、異業種が連携し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みが必要です。

このように、技術革新、消費者ニーズの変化、地域経済の課題、そして社会課題の複雑化といった背景から、農業、商業、サービス、工業、観光などの多様な産業が連携し、横断的に産業振興を進めることが求められています。

これらの社会的、経済的な背景は滝沢市においても例外ではなく、その中で滝沢市の強みを生かし、市民を含めた様々な産業分野の連携が必要です。令和3年4月には「滝沢市産業振興条例」を策定し、さらに「滝沢市産業振興会議」を設置し、各産業分野の連携に関する意見交換を進めています。

滝沢市には、岩手山を中心とした豊かな自然環境、チャグチャグ馬コに代表される伝統文化、スイカやリンゴといった農産物などの地域資源があります。また、大学が2校立地しており、研究機関を含め国や県の教育研究機関も立地しているため、県内で最も若い自治体でもあります。さらに、岩手県立大学周辺地区には IT 関連企業が集積しており、企業集積にとどまらず、教員の研究成果の活用や人材育成なども大学と連携し活発に行われています。

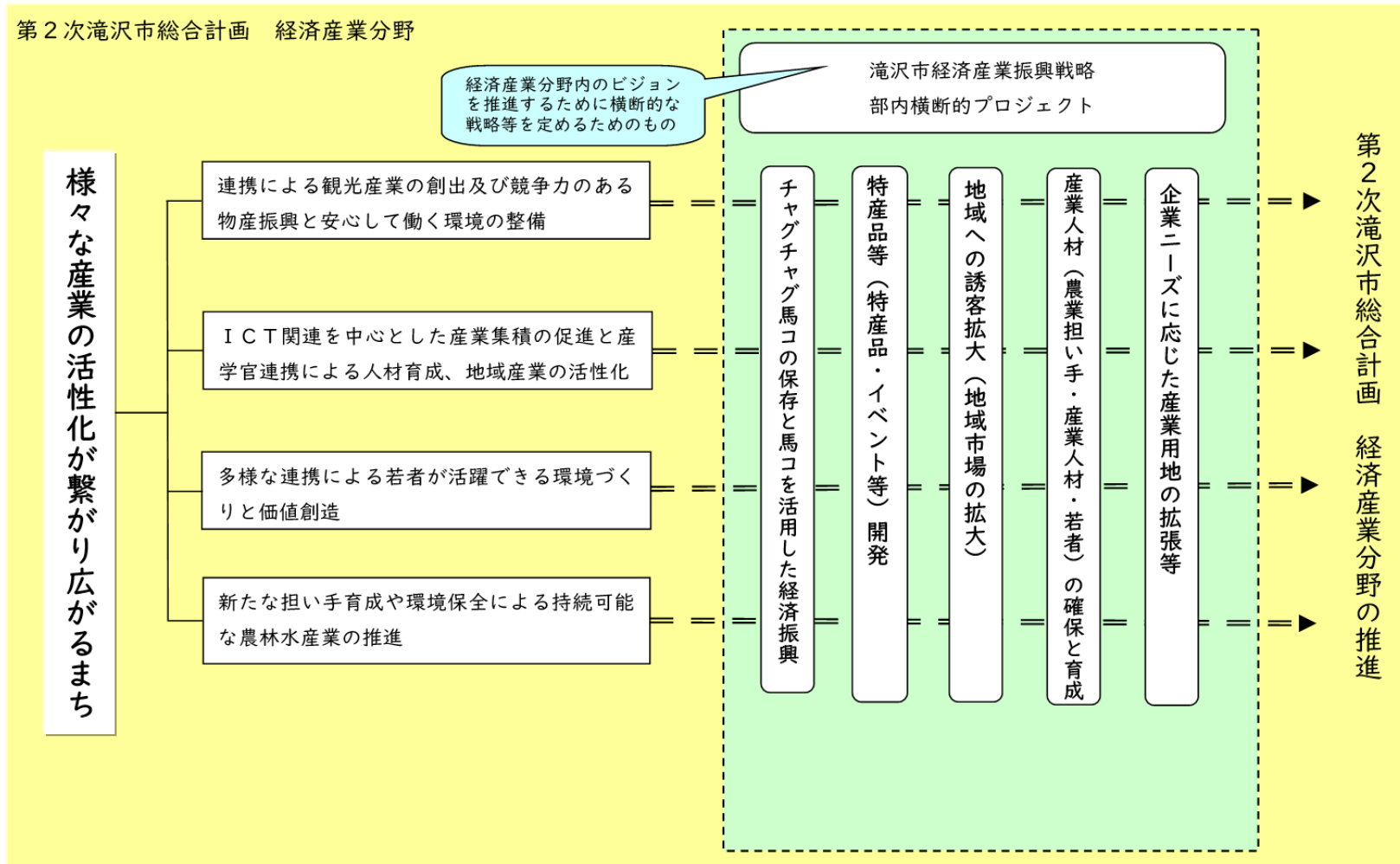
これらの背景や滝沢市の歴史、強みを生かし、地域内市場に対する地産地消の推進（地域内で取引を拡大させる）と、地域外市場に対する付加価値の高い商品やサービスの提供（地域外から所得を稼ぐ）を推進するためには、従来の産業の枠組みや振興策にとらわれない産業横断的な取組が必要です。滝沢市の課題や強みを踏まえ、次の5つの重点的かつ横断的なプロジェクトを掲げ、推進していきます。

- 1 チャグチャグ馬コの保存と馬コを活用した経済振興
- 2 特産品等（特産品、イベント等）開発
- 3 地域への誘客拡大（地域市場の拡大）
- 4 産業人材（農業担い手、産業人材、若者）の確保と育成
- 5 企業ニーズに応じた産業用地の拡張等

7 横断的経済振興プロジェクト

滝沢市地域経済振興計画は、第2次滝沢市総合計画の「経済産業部門」を遂行するための横断的な取組や事業を示し、経済産業部門の施策推進を加速させるための計画です。

従って、以下に示す5つのプロジェクトは、特に横断的かつ、具体的に経済産業部が中心となって進めるべきプロジェクトを示したものです。この5つのプロジェクトと第2次滝沢市総合計画の「経済産業部門」政策、施策を推進することで、滝沢市の地域経済振興を目指すものです。



チャグチャグ馬コの保存と馬コを活用した経済振興

◆ 取組の内容

○伝統文化としてのチャグチャグ馬コの現状の PR の推進

○馬の飼養しやすい環境づくりの検討

○チャグチャグ馬コを活用した地域内消費の推進と体験型観光の推進

○チャグチャグ馬コの継承のための企業との連携

◆ 背景及び概要

滝沢市の伝統文化や観光資源の一つとして、「チャグチャグ馬コ」が挙げられます。この伝統行事は知名度が高く、毎年6月の第2土曜日に行われる際には、全国から約17万人の観光客が訪れます。鬼越蒼前神社やビッグルーフ滝沢のある滝沢市には約2万7千人、行進ルートである盛岡市には約15万人が訪れます。滝沢市は古くから馬産地であり、「チャグチャグ馬コ」も愛馬信仰から生まれた滝沢市の鬼越蒼前神社のお祭りが、現在のように盛岡市まで行進する形の観光行事になったものです。

また、滝沢市の岩手山麓に広がる市営相の沢牧野には、春から秋にかけて約500頭の牛や馬が放牧され、壮大な景観を形成しています。その光景を見るために訪れる人々も多くいます。さらに、乗馬体験などができる「馬っこパーク・いわて」も市内にあり、馬に関する観光資源が豊富に存在しています。

一方で、かつては農耕馬として農民と深い繋がりを持っていた馬も、現在では「チャグチャグ馬コ」の行進のために飼育されている状況です。加えて、馬の飼育にかかる経済的な負担や馬主の高齢化などの理由により、飼養頭数は年々減少しており、特に盛岡市の飼養頭数は減少しています。また、「チャグチャグ馬コ」行進の当日は約17万人の観光客が滝沢市や盛岡市を訪れるものの、1日限りの行事であり、知名度の高い「チャグチャグ馬コ」のイメージが十分に活かされていない状況です。

「チャグチャグ馬コ」の継承には、装束等の文化の継承、馬の頭数の維持、馬を支える人の維持の3点が重要であり、特に馬と馬主の信頼関係で成り立っている祭りであることから、馬の頭数の維持も重要ですが、それ以上に馬を支える人の維持が「チャグチャグ馬コ」存続に大きく影響するものと考えます。

そのため、「チャグチャグ馬コ」の現状を理解していただくとともに、支援を募るため、ふるさと納税制度を活用したクラウドファンディングを実施しています。また、令和6年度には「チャグチャグ馬コ」のPRと馬コを支える馬主の皆さんの士気向上のため、東京の日本橋京橋まつりでのパレードに参加しました。さらに、装束の伝統を守るため、装束づくり講習会を継続して実施しており、参加者も増えています。

今後については、伝統文化としての「チャグチャグ馬コ」の保存のため、市民を含め多くの人に馬

コの現状などについて理解してもらうため、施設訪問やイベントなどへの出馬機会を増やすとともに、「チャグチャグ馬コ同好会」と連携し、馬を飼育しやすい環境づくりについて検討していく必要があります。

また、産業としての「チャグチャグ馬コ」行事については、「チャグチャグ馬コ」を誘客のきっかけとし、観光客等に地域内で消費を促す仕組みの構築や、市内の「馬っこパーク・いわて」などの施設と連携しながら、「チャグチャグ馬コ」行事以外の日も馬コに関する体験型観光の構築を進めていく必要があります。

さらに、「チャグチャグ馬コ」の課題を理解し、馬コ存続のために協力いただける企業との関係についても検討していく必要があります。

◆ 具体的な取組

伝統文化としてのチャグチャグ馬コの現状のPRの推進

- ・施設訪問やイベント等での出馬機会を増やす取組の推進
- ・ふるさと納税を活用したクラウドファンディングの継続実施
- ・装束づくり講習会の継続実施

馬の飼養しやすい環境づくりの検討

- ・市営相の沢の牧野の馬の飼養の継続と飼養環境の検討
- ・馬の飼養しやすい環境づくりのためのチャグチャグ馬コ同好会との連携

チャグチャグ馬コを活用した地域内消費の推進と体験型観光の推進

- ・チャグチャグ馬コを観光資源として活用した観光客等の地域内消費の促進策の検討
- ・馬コを活用した体験型観光の創出のための企業等との連携

チャグチャグ馬コの継承のための企業との連携

- ・チャグチャグ馬コの企業へのPRの展開
- ・チャグチャグ馬コの継承のための企業との連携策の検討

特産品等（特産品、イベント等）開発

◆ 取組の内容

○特産品等の開発のための農業、商業、工業、サービス業等の産業間の連携強化

○自然、文化、歴史等の背景も含めた物産等のPRと開発、販路拡大の強化

○滝沢市の「モノ」、「コト」、「ヒト」を繋ぐ組織や人材の発掘、育成

◆ 背景及び概要

滝沢市の特産物にはスイカ、リンゴ、岩魚、サツマイモなどがあります。これらは、岩手山の麓で長い年月をかけて育まれた豊かな土壌と清らかな伏流水により、おいしい自然の恵みとして育まれています。特に「滝沢スイカ」や「滝沢はるか」などは、滝沢ブランドとして生産・販売されていますが、いくつかの課題があります。

滝沢スイカは、生産量や収穫時期の制約から、ほとんどが県内で消費され、広域的な販売が難しい状況です。また、滝沢はるかは天候の影響を受けやすく、生産量が安定しないため、販売拡大が難しい現状があります。さらに、サツマイモは主に農家が焼き芋や干し芋として産直販売していますが、需要に対して供給が追いつかず、機会損失が発生しています。

こうした状況に対応するため、滝沢市では「滝沢市特産品開発振興事業補助金」を設け、特産品開発を支援しています。毎年農家を中心に応募があり、徐々に開発は進んでいますが、生産量の拡大には金銭面や人材面での課題が伴い、一農家だけでは対応が困難です。こうした課題は、ふるさと納税の返礼品についても共通しています。生産体制の強化には、地域の商工業者と連携した体制づくりが必要不可欠となっています。

このため、令和6年度には、滝沢市商工会、滝沢市観光物産協会と「滝沢市特産品開発連絡会」を組織し、特産品に関する課題共有や情報交換を行っています。今後は農業、商業、工業、サービス業などの幅広い連携が求められます。

加えて、生産体制の構築と並行し、加工や販路の開拓も重要です。滝沢市では、地域製品の消費拡大と認知度向上、生産者と加工業者や飲食店などのマッチングを目的とした「たきざわ大地の恵みまるっと“晩さん会”」を開催しています。今後は、このようなマッチングの場の拡大と販路拡大の推進が必要となっています。

さらに、滝沢市の農産物や加工品は、岩手県内や地域内では認知が進んでいるものの、知名度は依然として低い状況です。そのため、滝沢市の強みである大学の立地や若い自治体としての特色を活かし、若者と連携したデザインやパッケージのPRが必要です。また、滝沢市は岩手山の自然に恵まれ、山麓地域は戦後の開拓者によって築かれた歴史を持つことから、これらの文化や歴史を取り入れたストーリーブランディングの構築が重要と考えます。

特産品の開発においては、商品そのものだけでなく、体験事業の開発も重要です。滝沢市の自然や

歴史、文化を活かした体験型観光と特産品を組み合わせることで、相乗効果を生む取り組みが求められます。

また、滝沢市の課題である生産体制の整備に加え、開発、PR、販路拡大、体験事業などを支えるプラットフォームとしての地域商社的な組織や人材の発掘・育成が重要です。これらの取り組みは、関係機関と連携して進めることが不可欠となっています。

◆ 具体的な取組

特産品等の開発のための農業、商業、工業、サービス業等の産業間の連携強化

- ・地域の農業、商業、工業と連携した生産体制の構築
- ・ふるさと納税を活用したクラウドファンディングの継続実施
- ・滝沢市特産品開発連絡会を中心とした連携の推進

自然、文化、歴史等の背景も含めた物産等のPRと開発、販路拡大の強化

- ・マッチングイベント等の継続的開催
- ・物産だけではなく体験事業等も含めた文化や歴史を取り入れたストーリーブランディングの構築
- ・強みである若者を活用したブランディング
- ・ネットワークの拡大とネットワークを活用した販路拡大

滝沢市の「モノ」、「コト」、「ヒト」を繋ぐ組織や人材の発掘、育成

- ・滝沢市の農業、物産、観光等の生かすための地域商社等の組織の検討
- ・滝沢市の農業、物産、観光等の生かすための人材の発掘と育成

地域への誘客拡大（地域市場の拡大）

◆ 取組の内容

○北東北の人口をターゲットとした誘客施設（商業施設、MICE※等）の誘致の推進

○誘客者が滝沢地域内で消費する仕組みの推進

◆ 背景及び概要

岩手県内では少子化や人口減少が顕著となっており、滝沢市でも今後は人口減少が進み、地域内市場に大きな影響を与えると考えられます。そのため、地域内市場の縮小に対応しつつ、他地域からの消費者を増やす方法を早急に検討していく必要があります。

他地域からの消費者を増やす方法として、滝沢地域にある魅力的な観光資源を活用し、観光客が滝沢地域を訪れる魅力づくりを推し進める必要があります。しかし、歴史的な背景から滝沢市には宿泊施設がないため、経済波及効果が弱いという課題があります。

一方で、滝沢市は県都盛岡市に隣接しており、東北縦貫自動車道、国道4号、国道46号、JR田沢湖線、IGRいわて銀河鉄道線が通っており、交通アクセスが良好です。特に北東北（青森県、秋田県、岩手県）の交通拠点としての地理的優位性を持っています。

この優位性を生かし、滝沢地域への誘客拡大を進めることが重要と考えます。誘客の推進は、人口減少が進む中で地域内市場の縮小に対応する有効な手段であり、北東北の人口を地域内市場に取り込む可能性があります。

今後の誘客方法の一つとしては、観光資源の活用が考えられます。特に知名度の高い「チャグチャグ馬コ」は多くの観光客が訪れており魅力的な資源ではありますが、6月の第2土曜日の1日限りの行事であり、また、その他の観光資源は魅力的であるものの、一つ一つの個別では誘客にはつながりにくい状況があります。したがって、従来の観光の考え方を見直し、滝沢市の地理的条件や交通アクセスの強みを活かした新たな誘客や複合的な誘客手段の検討を進める必要があります。

具体的には、北東北をターゲットとした商業施設の誘致や、2つの大学があるという優位性を活かしたMICE（Meeting, Incentive, Convention, Exhibition）の誘致や活用を進めることが、滝沢地域への誘客拡大と地域市場の拡大につながると考えられ、誘致の可能性や適切な場所の検討を進めることが求められます。特に、ビッグルーフ滝沢の整備や更なる中心拠点商業地区の整備により中心拠点の価値が可能性を踏まえ、さらなる商業施設などの誘客施設の立地可能性等について調査を進める必要があります。

また、現状においても、岩手山、鞍掛山、相の沢キャンプ場、ツガワ未来館 Apio などの誘客施設が存在し、市内の自動車交通量の多い国道や県道といった交通の要所も通っております。しかし、これらの誘客施設を活かして地域内で消費を促す仕組みが十分ではありません。したがって、現状における誘客施設の活用をさらに検討するとともに、誘客による滝沢市内での消費を促進する取り組みを関係機関や企業と連携して進める必要があります。

◆ 具体的な取組

北東北をターゲットとした誘客施設（商業施設、MICE 等）の誘致の推進

- ・ 誘致方針の検討（ターゲットとする誘客施設の選定、効果、場所等の検討）
- ・ 中心拠点商業地区の次のエリアへの誘客施設の立地可能性等の調査、検討
- ・ 誘致候補となる企業等への企業訪問

誘客者が滝沢地域内で消費する仕組みの推進

- ・ 現状での誘客施設と誘客数等の調査
- ・ 関係機関（滝沢市商工会、滝沢市観光物産協会）との課題の共有
- ・ 関係機関と連携した滝沢地域内で消費する手法の検討

※MICE Meeting, Incentive, Convention, Exhibition

Meeting（会議・研修・セミナー）、Incentive tour（報奨・招待旅行）、Convention または Conference（大会・学会・国際会議）、Exhibition（展示会）の頭文字をとった造語で、ビジネストラベルの一つの形態

産業人材（農業担い手、産業人材、若者）の確保と育成

◆ 取組の内容

○魅力的な雇用機会の創出

○教育機関等と連携したキャリア支援の強化

○就農ハードル下げる取組と積極的な情報発信

◆ 背景及び概要

滝沢市には、盛岡大学および岩手県立大学の2校が立地し、約4,000人の学生が通学しています。さらに、市内には盛岡北高校や盛岡農業高校があり、広域においては岩手大学や岩手県産業技術短期大学校、専門学校なども多く存在しています。滝沢市は県内で最も若い自治体であり、若者の活躍が期待される地域となっています。

しかしながら、岩手県や滝沢市では、首都圏を中心とした若年層の流出が課題となっており、特に女性の流出が増加している点が大きな問題となっています。2024年2月にいわぎんリサーチ&コンサルティングが実施した調査では、若者が地域から離れる理由の1位は「やりたい仕事（業種など）が地方では見つからない」、2位は「（首都圏の方が）賃金が高い」という結果が出ており、いずれも仕事に関する理由が上位を占めています。この結果から、地方において若者が希望する仕事を調査することや、企業誘致の重要性が示されています。

こうした背景を踏まえ、滝沢市では若者が地域に残れるよう、岩手県立大学ソフトウェア情報学部に着目し、その卒業生が地元で希望する仕事を見つけられる環境づくりに取り組んでいます。その一環として、滝沢市 IPU イノベーションセンターを建設し、企業誘致を推進しました。現在、滝沢市 IPU イノベーションセンター、滝沢市第2イノベーションセンター、イノベーションパークには約30社の企業が立地し、岩手県立大学ソフトウェア情報学部の卒業生を中心に地元での就職が進められています。

今後は、岩手県立大学のソフトウェア情報学部以外の学部や盛岡大学の学生にも広く波及する取り組みが求められます。イノベーションセンター、パークはほぼ満室のため、現在、拡張を進めようとしています。その際には、IT関連企業の誘致に加え、ITと親和性のある製造業やサービス業など、若者が興味を持つ多様な企業の立地も検討しています。

また、岩手県立大学と連携し、企業学群構想の一環としてインターンシップ等の促進を進めています。学生が早い段階から地元企業を知り、コミュニケーションをとる環境づくりが重要と考え、こうした取り組みをさらに強化していくことが重要と考えています。また、人生や就職に夢を持ち、県外に就職することは否定するものではないですが、地元企業を知らないまま県外に出ることがないよう、情報発信や交流の場の拡充が重要と考えます。あわせて、地元企業と連携して、ワークライフバランスを重視した働き方働きやすい環境の整備について検討をする必要があります。

さらに、地元企業の認知度向上と人材確保に向け、滝沢市商工会と連携して職業マッチングイベントを開催しており、今後も継続し、市内企業を市民に知ってもらう取り組みを推進する必要があります。

加えて、子どもたちが地元企業を知る機会を増やし、産業人材の育成を進めることも重要です。滝沢市商工会青年部と連携し、子ども向けの職業体験イベントを実施しており、今後も継続的に開催するとともに、プログラミングセミナーやワークショップなどのイベントを通じ、将来の産業人材育成に対応した活動を推進する必要があります。

農業の人材確保と育成は重要な課題であり、様々な視点からの対応と支援が必要と考えています。一つの視点として、農地の集積と集約を行いながら生産性を高めていく必要があります。地域計画の策定と農地中間管理事業を合わせて実施することにより、市内全9地区において組織が設立しております。今後は、地域計画の実践に向け地域農業の将来像を具現化していくとともに、生産性が高く、雇用を生む組織へと強化を図るため支援する必要があります。

また、新規就農の視点としては、土地や作物に関する相談窓口の充実が必要であり農業委員会や農林課で連携した対応が求められます。さらには、新規就農者を増やすためには、農業の魅力や滝沢市で農業を行うことのメリットを伝えることが重要です。滝沢市では、令和6年度に滝沢市での農業の魅力を伝えるポスター、パンフレット、動画などを作成しました。これらのコンテンツを活用し、滝沢市の魅力である都市型農業の特長を発信する必要があります。そのため、農業フェアのようなイベントへの積極的な参加に加え、SNSや多様な媒体を活用した情報発信の強化が求められます。

農業では、就農後に土づくり、作物栽培、販路開拓のほか、経営全般を一人で担う傾向があります。そのため、就農を希望する人が法人等で栽培や経営の経験を積める環境づくりが重要です。しかし、そうした法人の数は少なく、さらに採用まで行う法人はさらに限られています。そこで市では、メンター制度を設け、就農を目指す方の支援を行っています。今後も継続的にこの取り組みを進めるとともに、資金、土地、技術などの面で就農のハードルを下げる支援が必要と考えています。

また、小さな頃から農作業や食材に触れ合う機会を創るため、滝沢市グリーンツーリズム推進協議会と連携し、小中学生を対象とした農業体験や講話、さらには、シェフやパティシエによる小学生を対象とした味覚の授業を行っており、今後も農業が職業の一つとしての選択肢となるような取組を進める必要があります。

◆ 具体的な取組

魅力的な雇用機会の創出

- ・企業誘致の推進（滝沢市 IPU イノベーションパークの拡張、若者が興味を持つ企業の誘致）
- ・地元企業と若者等との交流事業等の開催（職業マッチング）
- ・地元企業と連携した働きやすい職場環境の検討
- ・産業支援機関と連携した地元企業等を知ってもらうための情報発信の強化

教育機関等と連携したキャリア支援の強化

- ・教育機関と連携したインターンシップ等の実施
- ・将来の産業人材となる子供たちへの人材育成の実施（職業体験イベント、プログラミング等）

就農ハードル下げる取組と積極的な情報発信、農業が職業選択の一つとなる取組の推進

- ・地域計画を軸とした地域組織による生産性の高い農業の推進
- ・就農相談窓口の充実
- ・農業の体験がしやすい環境の構築（メンター制度）
- ・積極的な情報発信（農業フェア等への参加、コンテンツ活用による情報発信）
- ・小中学生を中心に若者が農作業や食材と触れ合う機会の創出

企業ニーズに応じた産業用地の拡張等

◆ 取組の内容

○岩手県立大学周辺の産業用地の整備

○岩手県立大学周辺以外の産業用地の検討

○市内企業からの拡張等の相談への対応

◆ 背景及び概要

市では、岩手県立大学ソフトウェア情報学部に着目し、その卒業生が地元で希望する仕事を見つけられる環境づくりに取り組んでいます。その一環として、滝沢市 IPU イノベーションセンターを建設し、企業誘致を進めてきました。現在、滝沢市 IPU イノベーションセンター、滝沢市第 2 イノベーションセンター、イノベーションパークには約 30 社の企業が立地しており、岩手県立大学ソフトウェア情報学部の卒業生を中心に地元での就職が進んでいます。

現在、イノベーションセンターは満室であり、イノベーションパークは分譲地が残りわずかであるため、拡張を進めており、IT 関連企業の誘致に加え、IT と親和性のある製造業やサービス業など、若者が興味を持つ多様な企業の立地も検討しています。今後、基本設計、用地買収等を進め造成工事を進めていきます。

岩手県立大学周辺以外の産業用地の候補としては、滝沢中央スマートインターチェンジ周辺が考えられますが、市街化調整区域であり、かつ農地である点や周辺道路の渋滞など、課題を一つ一つ解決していく必要があります。滝沢中央スマートインターチェンジ周辺は市街地が形成されており、スーパーマーケットや飲食店など、従業員にとっての就業環境は非常に良好です。今後、国、県、関係機関と調整を行いながら整備に向けた調査等を進めていく必要があります。

また、ビッグルーフ滝沢の整備や更なる中心拠点商業地区の整備により中心拠点の価値が高まることにより、さらなる商業施設などの誘客施設の立地可能性等について調査を進める必要があります。

その他の産業用地の候補地については、市内の幹線道路等の沿線など、可能性を含めて今後調査を進めていく必要があります。

また、企業からの立地に関する相談を受けた際には、企業の要件を聞きながら関係部署間で都度検討し、可能性を調査するとともに、個別対応を行っていく必要があります。さらに、市内企業の拡張等に関する相談についても、企業からの要件を聞きながら関係部署間で調整を行い、個別に対応していく必要があります。

◆ 具体的な取組

岩手県立大学周辺の産業用地の整備

- ・ 用地買収（岩手県との交渉、事務手続き）
- ・ 基本計画、用地測量（土地利用計画、コンセプト）
- ・ 造成工事

岩手県立大学周辺以外の産業用地の検討

- ・ 滝沢中央インターチェンジ周辺の調査検討
- ・ 中心拠点地域の周辺地域の調査検討
- ・ その他国、県道沿線等の調査

市内企業からの拡張等の相談への対応

- ・ 新規立地企業への候補地調査等
- ・ 地元企業の拡張への対応

8 滝沢市地域経済振興計画の進行管理について

滝沢市地域経済振興計画実現のために経済産業部内での連携を強化し取り組むこととし、また、必要な部分については庁内関係課と連携のため、情報共有をはかり必要な場合には横断的なチームを結成し、実現に向けた取り組みを行うものとします。

また、滝沢市産業振興会議と共有を図るとともに、事業の実施にあたっては第2次滝沢市総合計画「経済産業部門」計画と同様進捗状況を共有するとともに、関係する産業支援機関等と連携することで、実効性を高めるとともに、加速度を付けて推進することとします。